

Carolina Skiff 2380

カロライナスキフ・2380

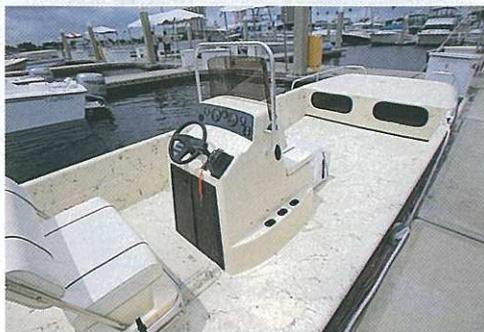
「フロリダのベストセラーブランド」



スクエアかつシンプルなパウデッキとセミVシリーズの船底形状。



ドライブシート、センターコンソール、パウデッキ等はユーザー側で選択可能。フロアはクモの巣状のゲルコート塗装。



シンプルなダッシュボード形状ながら、メーター類は充実している。



フロアに溜まった水はリヤデッキ下に集まりビルジポンプで排出される。



わずか15cm位の喫水を誇る。BF115LAでも十分に速い。



SPECIFICATIONS

Carolina Skiff 2380

全長	6.91m
全幅	2.30m
全高	—
艇体重量	504kg
エンジン	BF115LA
燃料容量	—
定員	—
航行区域	—

フロリダのベストセラーブランドが「カロライナスキフ」だ。ちなみに、販売2位が「ポストンホエラー」、3位が地元「ヒューズ」となるそうである。ベストセラーの要因を探ってみると、まずは低価格であること（2380の艇体価格は約5千ドル）。加えて、フロリダ州周辺の海面環境が挙げられる。

ラインアップは、12×24フィートのレンジに、大別すると日本でも紹介されている小型のJシリーズ、フラットな船底を持つスタンダードモデル、少しVを加えた緩いカセドラ形状のセミVシリーズモデル、完全なディーブVハルのシーチエイサーで、計16艇を揃えている。

シーチエイサーを除いて共通するのは、船底にFRPのストリングを115mm毎に横に並べ、その間に充填されたフォームがもたらす、抜群の浮力と強度を備えた特許構造のハル性能だ。カタログには、アメ車のトラックを積んだ走航シーン、大型トレーラーが乗り上げても壊れないシーン、3つにカットしても人が乗って浮かんでいるシーンの写真が誇らしげに掲載されている。

実際にデッキに降り立った瞬間に、その浮力と高剛性を感じる事ができた。とにかくフロアがコンクリートのように硬く、横揺れや沈み込みがないのだ。デッキと比較すると、ブルワークは少し柔な感じだ。

ここフロリダの、ワニが出そうな湿地帯や浅瀬では、そのわずか

75×150mmの喫水が、絶大な威力を発揮する。トリムをフルアップしても船外機のスケグが底を擦る状況下でも、完全にチルトアップして、さらに竿でポートを進めて行けるのだ。船外機の上に付ける、ウイングのようなデッキも用意されている。

クモの巣状のゲルコート塗装がユニークな、素船に近いデッキに、ドライブシート、センターコンソール、パウデッキ等、様々なパーツを選択して取り付けられるのもユニークだ。

セミVシリーズモデルに属する「2380」は、他と同じく部品を選んで取り付けることができるが、試乗艇にはセンターコンソールとフリップフロップシート、パウとスターンにはデッキとレールが設けられていた。船外機は115馬力までの搭載が可能となるが、今回はBF115の1基掛け仕様となる。

デッドスローからの加速では、ほとんどハンブなしにブレーニングに入る。高剛性の船体により、チョッピーな海面の中でも安定感のある走りだ。船底がフラットに近いので、115馬力でも充分すぎるほどに速い。乾舷が低いので、スピード感がある。おかげで時々スプレーを浴びる。

旋回性能も思ったほど悪くはない。横滑りなしに、内傾斜で回頭していく。メカニカルステアリングのため、操舵感は軽快ではない。日本でも、浅瀬の多い地方では結構使えるボートではないだろうか。